



Q 小学3年の子が友達に物を隠されたり蹴られたりするので、
すが、「先生には言わないで」と言います。

言わないでと言われたことも含めて先生に相談しましょう。
大人の視線を感じれば抑止力になります。

A

まず担任に相談を

今頃の時期は、クラスにも慣れて、授業中におしゃべりや子供たち同士のおしゃべりが始まる頃です。担任の先生は、そうならないように、4月から子供たちとの関係づくりや、教室のルール作りをしています。

心配なことがあれば、担任に相談しましょう。些細なことで相談していいのだろうか、遠慮する必要はありません。先生は、情報があればクラスの状況を把握しやすくなります。

連絡帳で相談したい旨、伝えます。子供には、PTAの用事

で学校に行くと言っておけばいいでしょう。先生には、子供から「言わないで」と言われたことも含めて、しばらく様子を見てもらうよう依頼します。「介入しないで見て頂きたい」と思う」とも伝えましょう。

話をきちんと聞く

子供が親に隠さないと話してくれたのはいいことです。高学年ぐらいから思春期にかけて自尊心が高まるので、心配かけないようにしようと考え、親に話さなくなったりします。話すの

は勇気のいることなのです。

小学校の時期は、親子関係の土台を築く時期ですから、子供がなにか言ってきたら、きちんと話をきいてあげるようにするといいですね。それが子供の安心感につながります。子供の様子を見ていれば、「あとでね」と言っているのかどうか、わかります。

思春期に入るとよけいに子供は話さなくなりますから、親の坎を磨くことが大切になります。あれこれ先回りもできませんので、「少年は手を離せ 目を離すな」で、しっかりと子供に目を向けましょう。